



平成 24 年 6 月 23 日

カンタベリー日本語補習校
校長 長野 晴展

一学期も残り1週（1日）となりました。6月6日(水)は大雪警報が発令されるほどの積雪でしたが、大丈夫でしたか？ 雪だるま作りや雪合戦など子ども達にとっては、大変な喜びだったことでしょう。我が家では7～8cm積もり、フェイ（フィ）ジョアの樹が雪の重みで折れ、後片づけを10日(日)にしました。道路も凍結し、急に真冬になったようでした。私の郷里福岡市でも年に一度は積もりますが、すぐに溶けてしまいます。しかしここでは、翌々日8日まで積雪が残っていました。現地校も授業打ち切り放課・時間を遅らせての登校などで対応していたようです。

「七夕集会」に向けて

児童・生徒会主催の七夕集會を6月30日の一学期終業式後引き続きホールで行います。当日12:45～12:55子ども達が各学級の前にある笹に短冊等の飾り付けをします。少し早めに登校できるようご協力をお願いします。なおこの笹は、毎年クライストチャーチ在住の日本人の方からご提供いただいております。ありがとうございます。

学級懇談会で話題になった国語「漢字指導」について

本校が基にしている「補習授業校のための指導資料集」（国語）文科省2011年度版年間40日（1日2時間）によれば、準備・反復・習熟と漢字学習のかなりの部分を家庭学習に割り当てることが前提に計画が組まれています。新出漢字は、難度の高いもの（画数が多く字形が複雑な字・点画や字形を間違えやすい字など）を教室で指導し、平易なものは家庭に託すことを原則としています。「家庭は第二の教室、保護者は第二の担任」です。

冬休みの学習（一学期の学習の定着を図り、二学期以降の学習に備える。）について

国語の基礎基本は、音読・作文・視写・漢字です。

音読：小学部はつとめて声に出して毎日読む。

作文：日記を書くのを習慣化する。言葉づかいや文法に注意する。

視写：適切な量の教科書の文を毎日ノートにていねいに書き写す。

漢字：漢字ドリルを毎日少しずつ繰り返す（一学期の復習）・部首指導など。

読書：娯楽の一つとして勧める。

算数でも一学期の復習などが宿題（家庭学習）として課されていると思います。見通しをもち、計画的に進めましょう。余裕があれば、保護者の裁量による発展課題も考慮しましょう。

○裏面に「読み聞かせ」を薦める児童文学者の文章を載せています。参考にして頂ければ幸いです。

4年2組(6/9) ▶

久し振りの登校で緊張します。



◀5年(6/9)

「学級での指導」の時間
(先生のお話)



3年1組(6/16)

児童・生徒会による七夕集會の飾り付けについて



3年2組(6/9)

しっかり書けていますか？



4年1組(6/16)

七夕集會の飾り付けについて



読み聞かせは心の栄養（抜粋―1）

児童文学者 宮地 敏子（四年半アメリカで子育て）

選書と読み聞かせ方法

どのように本を選び、読み聞かせれば良いのでしょうか。

まず選書についてですが、海外にいと、本屋や図書館に行くのを習慣づけ、自由に子どもの好きな本を選ばせるということは不可能でしょう。親が子どもの選ぶ絵本や本に偏りがあるのを発見して、関心を広げるために意図的に本を選んだり、また子どもが選ばない大切な価値を伝えている本などを選ぶことは容易ではありません。

赤ちゃん絵本、昔話、創作絵本、科学絵本、ナンセンス絵本、詩の本、図鑑など分け方もジャンルも多彩ですが、補習校などには新刊はともかく、古典的な良書はかなりそろっています。ぜひ一度足を運んで蔵書をご覧になってください。また児童専門店の通信販売を購読したり、お母さん仲間と積極的に絵本や本の貸し借りをするのも一案でしょう。

読み聞かせは親子の対話・会話

さて、どのように読み聞かせればよいのでしょうか。

一つには、親が先に読んでおいて、その本を「おもしろい」と思うこと。そして、子どもの年齢に関わりなく、「ゆっくり」「はっきり」「心をこめて」お読みください。

「ゆっくり」とは、絵も十分鑑賞できるようにお話を丁寧を読むこと。

「はっきり」とは、一つ一つの言葉を明確に読むことです。

「心をこめる」とは、読み手の大人が、子どもに読もうとする本をあらかじめ読んで理解していれば、悲しい場面は悲しく、勇気が必要な場面は凛として読めるものです。おとも主人公に自分を重ねれば自然に心がこもっていくことでしょう。

二つには、根気良く続けることが大事だということ。「食事は体の栄養、絵本は心の栄養」と言われ

るほどです。食欲がある日もあればない日もありません。でもバランスの取れた食事を子どもの体は求めています。それと全く同じで、読んでもらいたい日もあればそうでない日もあるでしょう。でも、いろいろな絵本を子どもの心は求めているのです。食の細い子に工夫して食べさせるのと同じで、根気よく読み聞かせをお続けください。

三つには、いろいろな本をお読みください。読み聞かせが嫌いな子どもはいません。

「乗り物の本しか興味がない」とか、「うちの子は外で遊ぶのが好き」というのは、森羅万象を表現している様々な絵本を子どもに伝える努力を親が怠っているのかもしれない。子どもの関心を限られたものにしてしまっているのかもしれない。

子どもが持つてくる絵本ばかりではなく、親が選んだ本も読み聞かせに入れることをルールのように決めると、新しい世界が広がっていきます。どちらかというところ、ユーモアがあり明るく、展開が軽快なもの、子どもが好みになりがちです。軽いスナックばかりを食事にしないのと同じで、硬いもの、味わい深いもの、栄養になるのに時間が掛かるもの、無用のような本も親の見通しにそってお選びください。

最後に、日本語のためにとビデオ（DVD）を視聴させる事が盛んですが、注意が必要です。優れた教育ビデオでも、双方方向のコミュニケーションにはなっていません。「対話」も「会話」もできません。受動的なものであることを十分ご理解のうえ、お子さんも話し合って制限を設けていただきたいと思います。

日本語の文章を正しく読み解き、正確な日本語で筋道を日本語で筋道を立てて考え、文章にもできること。この日本語（国語）は小学校卒業までに身につけるべきだと言われています。読解力、論理力、思考力、表現力などの総合である日本語は、学力の基礎になります。ここで言う学力は狭義ではなく、生きていく力と言い換えてもよい力です。

親と子が共に読み合い語り合う時間を、一日のうちのひとつときお創りいただければと切に思います。